

クロピドグレル錠「タナベ」を末梢動脈



疾患における血栓・塞栓形成の抑制

のためにお飲みになる患者さんへ

クロピドグレル錠「タナベ」は、血小板の機能を抑えることにより血液を固まりにくくし、血管が詰まらないようにします。

 25 mg		<p>〈表面〉</p>  <p>〈裏面〉</p>  <p>PTPシート</p>
 50 mg		<p>〈表面〉</p>  <p>〈裏面〉</p>  <p>PTPシート</p>
 75 mg		<p>〈表面〉</p>  <p>〈裏面〉</p>  <p>PTPシート</p>

おくすりを飲むときに注意すること



- ◆ おくすりはPTPシートから取り出してお飲みください。
- ◆ 次のような方は使う前に必ず担当の医師と薬剤師に伝えてください。
 - 以前におくすりを使用して、かゆみ、発疹などのアレルギー症状が出たことがある。
出血している、抜歯や手術を予定している。
 - 妊娠中、妊娠している可能性がある、授乳中。
 - 他におくすりを使っている（お互いに作用を強めたり、弱めたりする可能性もありますので、他に使用中の一般用医薬品や食品も含めて注意してください）。
- ◆ 保管上の注意
 - 乳幼児、小児の手の届かないところで、直射日光、高温、湿気を避けて保管してください。

おくすりが残ってしまったら？

- 絶対に他の人に渡してはいけません。
- 余った場合は、処分の方法について薬局や医療機関に相談してください。

使用中に気をつけなければならないことは？

飲み始めの2ヵ月間は、2週間に1回、血液検査などが行われることがあります。

- 通常よりも、血がかたまりにくくなったり、出血しやすくなります。異常な出血がおこったり出血が長引く場合には、医師に連絡してください。
- 他の医師を受診する場合、特に、手術や歯の治療を受けるときには、クロピドグレル錠を飲んでいることを医師に必ず伝えてください。
- 薬局などで他のおくすりを購入する場合は、必ずクロピドグレル錠を飲んでいることを薬剤師に伝えてください。

このおくすりを使ったあと 気をつけていただくこと(副作用)

◆副作用として、出血、黄疸、吐き気・嘔吐、食欲不振などが報告されています。
このような症状に気づいたら、担当の医師または薬剤師に相談してください。

◆まれに下記のような症状があらわれ、[]内に示した副作用の初期症状である可能性があります。
このような場合には、使用をやめて、すぐに医師の診療を受けてください。

- 突然の激しい頭痛、悪心・嘔吐、顔や手足の片側麻痺
[頭蓋内出血]
- 下血(黒色便、血便)、吐血、視力障害、関節痛
[胃腸出血、眼底出血、関節血腫]
- 強い疲労感・倦怠感、食欲不振、白眼や皮膚が黄色くなる
[肝機能障害、黄疸]
- 倦怠感、食欲不振、紫斑、意識障害
[血栓性血小板減少性紫斑病]
- 咽頭痛、頭痛・頭重、耳鳴り[無顆粒球症、汎血球減少症]

以上の副作用はすべてを記載したものではありません。

上記以外でも気になる症状が出た場合は、
医師または薬剤師に相談してください。



生活習慣を改善し、 動脈硬化を 防ぎましょう

【監修】

医薬情報研究所／
株式会社エス・アイ・シー
公園前薬局(東京都)
薬剤師 堀 美智子 先生



動脈硬化性疾患を起こさないためには、動脈硬化を促進する喫煙や運動不足、食生活の乱れなどの危険因子を除去することが最も重要です。生活習慣を見直し、動脈硬化の予防に努めましょう。

ポイント 1

適度な運動を習慣にしましょう

肥満を解消・防止するためには、日頃から体を動かす習慣を身につけておくことが大切です。

積極的に運動を行うことで、善玉コレステロール(動脈硬化を防止)が増えることが分かっています。また運動による適度な疲労は、ストレス発散や良質な睡眠を促します。

注意! 何らかの治療を受けている人は医師と相談してから始めましょう。



ポイント ②

食べ過ぎに注意し、栄養バランスのとれた食事をしましょう

バランスのとれた食事を心掛け、1日3食規則正しく食べましょう。またよく噛んでゆっくり食べることで食べ過ぎを防ぐことができます。

アルコールの過剰摂取は動脈硬化を進行させるため、飲み過ぎには注意しましょう。



ポイント ③

禁煙しましょう

喫煙は動脈硬化の進行だけでなく、多くのがんの危険因子ともなります。例えば、たばこが吸いたくなる場所を避けたり、吸いたくなったら、別の行動でリフレッシュするなど、自分に合った禁煙方法を実行してみましょ。



ポイント 4

おくすりでのコントロールは 医師に従い適切に

すでに脂質異常症や高血圧症などの生活習慣病になっている場合には、おくすりによるコントロールが必要です。自覚症状がないからといって勝手におくすりの使用を中止するなどせず、医師と相談し適切に治療しましょう。また、動脈硬化は早期発見が大切です。年に一度は必ず検査を受けるようにしましょう。



おくすりの飲み方と量（末梢動脈疾患における 血栓・塞栓形成の抑制の場合）

- ◆通常、1日1回、錠お飲みください。
- ◆おくすりの飲み方と量は、あなたの年齢・体重・症状にあわせて、医師が決めます。
指示のとおり飲んでください。

飲み方

- ① 飲むときはコップ1杯程度の水またはぬるま湯といっしょに飲んでください。
- ② 空腹時の服用は避けてください。
- ③ 飲み忘れた場合は、気がついた時にできるだけ早く1回分を飲んでください。
ただし、次の通常飲む時間が近い場合は、忘れた分は飲まないで1回分を飛ばしてください。
絶対に2回分を一度に飲んではいけません。
- ④ 誤って多く飲んだ場合は、出血などの症状があらわれるおそれがありますので、医師または薬剤師に相談してください。
- ⑤ ご高齢の方は、特に医師の指示を守って使用してください。
- ⑥ 医師の指示なしに自分の判断で飲むのをやめないでください。

医療機関・薬局名